

EVENT VISION

“Culture と Entertainment” を求めて ～「Touch The Japan」を成功に導く～

国際観光文化推進機構（ITCO）の理事長を務める安藤俊介氏は、今年4月に台湾で初めて開催した日本の観光・文化エキスポ「Thank You, Taiwan 第1回 Touch The Japan ～あなたの触れたい日本がきっと見つかる～」のエグゼクティブプロデューサーとして、同展を成功に導いた人物である。

このたび第2回展の開催が決まり、現在、台湾の方々の熱い期待に応えるべく、準備に邁進しておられる安藤氏に、「Touch The Japan」にかける想いや使命感、今後の展望について、話を伺うことができた。

開催地への思い

安藤氏は、これまでにない新しいイベント・展示会開催の足掛かりとして、台湾で日本単独主催のイベントを企画した。これが「Touch The Japan」のはじまりである。

メインテーマとなるのは、台湾への感謝だ。東日本大震災の発生後、台湾から寄せられた寄付金は200億円以上にもなった。そのほとんどが台湾の市民から寄せられた寄付であった。まさに個の結集であった。安藤氏は、この未曾有の厚意に日本人として応えるべく、大規模なイベントを台湾で開催することを決断。掲げたテーマは、「Thank You, Taiwan」。

「1人の思いは100人を動かす」という安藤氏の信念は、出展者85団体169小間、来場者4万人以上というイベント成功の原動力となった。

イベントに“サプライズ”を

「イベントは集客が重要です。そのためには圧倒的なサプライズが必要です」と安藤氏。

この考えに基づいた初開催では、台湾史上初の巨大スクリーン（幅40m×高さ5.5m）をサプライズとして日本から運び、日本の花火・絶景・祭り・食など夜明けから夕暮れまでの日本を象徴する8K映像ショーを繰り広げ、来場者を圧倒した。映像コンテンツ制作には半年を要したが、パンフレットやチラシなどでは表現できない

日本の自然と文化の魅力を台湾の方々に伝え、感じてもらえたことは、同展ならではの醍醐味の1つとなった。

今回の第2回展では、8K映像ショーに加え、さらなるサプライズとして、「巨大鯉のぼりくぐり」を行うことにした。全長35mにもおよぶ巨大鯉のぼりの中をくぐって会場に入るというアトラクションだ。大分県玖珠町で毎年子供の日に実施されているイベントで、同町外にはほとんど持ち出されることのない稀少な巨大鯉のぼり。これを台湾に運び披露するため、安藤氏自ら玖珠町町長にラブコールを送った。

* * *

これら数々のサプライズに満ちたアトラクションを実現するためにも、安藤氏は有料イベントの必要性を断言する。「感謝のイベントなのに、なぜ入場料を取るのか」、「なぜ有料なのか」という声があったのも事実だが、安藤氏は「私たちが開催するイベントは事業であり、ボランティアではありません。有料でなければ本当に良いものはできないはず。チケットを買い、イベントを楽しみ、満足して帰っていただく。それがイベントの面白さであり、妥協のないイベントを造るための本質ではないでしょうか。」と説き、多くの賛同を得てきた。今回、MICEをターゲットにする自治体やホテルなどにも出展者を広げると同時に、出展者への巨大スクリーンを使ったプロモーションの機会創出、さらに出展者が現地旅行代理店と実効性のある商談もできる場を実現し、展示会



「第1回 Touch The Japan」の様子

事業としてイベントの幅を広げる予定である。

MICE の新たな“C”“E”

安藤氏は、ツーリズム産業の中にMICEが含まれており、中でも日本のMICEにはConventionやExhibitionに加えて、もう1つの“C”“E”、つまりCultureとEntertainmentが必要なのではないかと考えている。

「“観光”という商品はありません。知性の結晶である文化こそが商品なのです。つまり、観光とは知性の交叉であり、文化の迎合なのです。これをMICEに当てはめると、CultureとEntertainmentがあってはじめて産業として成り立つと言えます。会場というハコがあるだけでなく、その場所でしか味わうことのできない、人が育んだ文化やサービスが付加価値となることで、MICEはさらに盛り上がるのではないのでしょうか。」(安藤氏)

日本で考えられているMICEは、海外におけるMICE

CEとは違いがあるのは事実であろう。日本人は個人がMICEに参加することが多いが、海外では家族同伴でのインセンティブ旅行が一般的である。そのため、安藤氏は「家族が楽しめる新たな“C”“E”が今後の鍵を握っているのではないかと語り、日本のMICEの新機軸にも着眼している。

「1人の思いは100人を動かす。100人が動けば1000人が動く。」という信念を持ち、台湾初開催の一大イベントを成功に導いた安藤氏。MICE+CEが今後、どのような形で表現されていくのか、ますます注目が集まる。



安藤 俊介 氏

一般社団法人国際観光文化推進機構 (ITCO) 理事長
Touch The Japan 実行委員会 委員長

アジア最大の英字出版社、大手ゲームメーカー、大手広告代理店を経て独立。プロデューサーとして、国内外のアーティストやエキスポに携わりながら、航空会社や政府観光局などのアビエーション&ツーリズムマーケティングも数多く手掛ける。現在、複数の企業のマーケティング顧問としても活動。又、2008年ポプラ社よりノンフィクション小説「もし風が見えるなら」を上梓、作家としてのデビューを果たす。